

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第5回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	平成26年10月23日(木)15時30分～
開催場所	高松市役所7階72会議室
議 題	(1)平成27年度高松市伝統的ものづくり振興事業（案）について (2)今後の事業展開に関わるその他の事項について (ア) 高松市伝統的ものづくり関係事業者登録制度（仮称） (イ) 広報事業 (3)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	4 人 池田会長、香川副会長、泉川委員、谷委員
傍聴者	1 人 (定員 5 人)
担当課および連絡先	産業振興課創造産業係 839-2411

審議経過および審議結果

(事務局)

開会のことば

～事務局より議題説明～

- (1)平成27年度高松市伝統的ものづくり振興事業（案）について
(2) 今後の事業展開に関わるその他の事項について
 (ア) 高松市伝統的ものづくり関係事業者登録制度（仮称）
 (イ) 広報事業
(3) その他

～事務局より議題（1）について資料をもとに説明～

(会長)

事務局からの報告について何か質問はないか。

(副会長)

ホームページで伝統的ものづくりの体験コースを紹介する事業案についてだが、対象を国内に絞らず、近年増えている外国人観光客を対象としたものを作ればよいのでは。特に海外からの観光客は SNS を参考にしてやってくる人が多いため、ニーズがあるのではないか。

また、県外の展示会等への参加に対する補助金交付についてだが、実際出展している状況を見ると当日の内容が充実しているとはいえない印象を受けた。補助金を出すだけでなく、当日の運営等へのフォローも必要なのではないか。

審議経過および審議結果

(委員)

事業が細分化されているため、各事業につながりを持たせる内容になればより効果的だと思う。たとえばセミナーを開催するのであれば、BtoBにつながるバイヤー等とのマッチングも兼ねるとよいのでは。

(委員)

コンペ事業等を行う場合は、手を挙げてもらう事業者事前に周知するためにも広報活動は十分に検討して行わないといけないと思う。

(副会長)

伝統産業という枠組みに限らず、販売者が「売りたい」ものを売するためのきっかけになるような機会を作るとよいと思う。

(会長)

販売セミナーに関しても、販売手法や経営に関してなどについて、例えば銀行員などプロフェッショナルのリアルな意見を聞けるような場になると良いと思う。失敗例も含め、失敗の原因をしっかりと探り、糧とする必要もある。

(委員)

東京でも、デパートは商業として衰退気味であり、むしろ個店のバイヤーが地方の産品を買い付けてきて販売することが増えてきている。また、ファッション業界が伝統産業の物品市場に参入しており、注目を集めている。

(会長)

売り手と買い手の意向の一致ができるように、委員の意見等を参考に次年度の事業について検討していただきたい。
親子体験教室の報告についても受益者負担も含め、費用対価を考えるとまだ改善の余地があると思われるため、次年度以降検討されたい。

～事務局より議題（２）について資料をもとに説明～

(委員)

登録制度についてだが、ホームページを早急に立ち上げそこに伝統的ものづくりに携わる人として実際に事業者名等を掲載するというメリット、広告的な要素を作ると良いのではないか。そのページを開くことで、気に入った商品を誰が作っていて、どこで買えるのかなどの情報を得ることができるようにしてほしい。

(委員)

登録制度では、特に売り手の登録に力を入れていただきたい。

(事務局)

今までに審議会委員の皆様にごった意見も参考にしつつ、再度制度のスキームをより充実したものに検討していきたい。